

A. 黒田如水屋敷跡（三ノ丸御鷹屋敷跡）



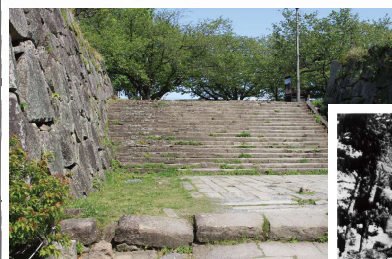
関ヶ原の役の功により、黒田長政が筑前黒田藩の初代藩主となり福岡城を築いた後、黒

田官兵衛（如水）も晩年を福岡城で過ごしました。その隠居地が現牡丹芍薬園です。

開園時間 9時～17時

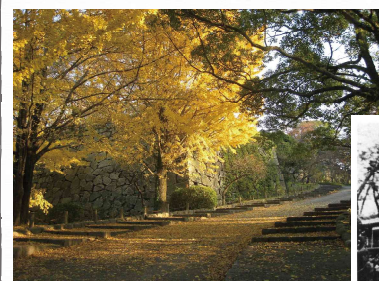
ただし、12月29日～1月3日は休み

B. 表御門跡（福岡城）



表御門は、大正7年（1918年）に、黒田家の菩提寺である崇福寺（博多区千代）に移築され、同寺の山門として使用されています。（写真右は古写真）

C. 松の木坂（福岡城）



二の丸に至るルート（門）の一つです。江戸時代には、城の防御のため、カギ型に曲がっていましたが、現代の改修で緩やかなカーブの坂に変わりました。（写真右は古写真）

みどころいろい ろいろめぐってみよう!!

E. 天守台（福岡城）



福岡城にはもともと天守閣はなかったとされていますが、近年天守閣が存在したという説もあり、「幻の福岡城天守閣」をめぐる議論が続けられています。現在の天守台からは福岡市北側の風景が広く望めます。

F. 多聞櫓（福岡城）



江戸時代から城内に残っている建物で、国の重要文化財に指定されています。石垣側に「石落とし」や「狭間」（鉄砲を打つ小窓）が備えられ

ていることから、いざというときの防御のための櫓と考えられています。内部はイベント時などに一般公開されています。

G. 祈念櫓跡（福岡城）



本丸の北東隅に鬼門封じのために建てられた櫓です。大正時代に北九州市の寺に移築されていました。その後、建物が建

つ石垣を修復するため、令和元年9月に解体しています。解体した櫓の柱や梁などの主要な部材は、別の場所で保管しています。

H. 鴻臚館跡展示館



平安時代の外交施設、鴻臚館の遺構の出土状態と復元建物、出土遺物を見ることができます。入場無料。開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

ただし、12月29日～1月3日は休館

I. 万葉歌碑



《今よりは 秋づきぬらし あしひきの 山松かげに ひぐらし鳴きぬ》西暦736年、新羅の国に派遣された使節一行が往路筑紫の館に

着いた時、故郷大和の方を望んでよんだ歌が石碑となっています。筑紫の館は後に鴻臚館と呼ばれ、宿泊施設と迎賓館を兼ねたもので、ここ福岡城跡内にありました。

J. 名島門



小早川隆景が築いた名島城の脇門で、黒田長政が居城を名島城から福岡城に移すとき黒田24騎の一人である林掃部に下げ渡され、邸宅の門として使用さ

れていたものです。明治の中ごろ、当時の代議士平岡浩太郎氏によって買い戻され、戦後現在地に移されたものです。

K. 東御門跡（福岡城）



藩主を支える家老職の屋敷があった三の丸から、二の丸→本丸→天守台と、城内を登っていくためのメインルートでした。「鏡石」と呼ばれる巨石や、石垣の上部には冠木（かぶき）（横木）を設置してい

た跡が見られます。

L. 旧母里太兵衛邸長屋門



福岡県指定文化財に指定されています。母里太兵衛は黒田24騎の一人です。母里太兵衛の当時の屋敷は、天神2

丁目野村証券株式会社（現福岡天神センタービル）のあった地にあり、この長屋門はそこに構えられていました。保存のために、昭和40年にこの地に移築されたものです。

M. (伝) 潮見櫓（福岡城）



潮見櫓とは海を監視するためのもので、海に面した福岡城らしい櫓です。「(伝)」と付く理由は、博多区千代の崇福寺に移築されていた月見櫓

が本物の潮見櫓であることが確認されたため、現在城内にある櫓を「(伝) 潮見櫓」と呼ぶようになりました。

N. 福岡城むかし探訪館



古地図や再現模型を通して、さまざまな角度から福岡城を身近に楽しく体感できる施設です。観光案内や休憩施設も併設していますので、ゆっくり鑑賞を楽しんでいただけます。開館時間：9時～17時（7～8月は9時～19時）ただし12月29日～1月3日は休館

D. 福岡城・鴻臚館 案内処 三の丸スクエア



三の丸スクエアでは、時の重なりを地層で表現した内観に、鴻臚館、福岡城の歴史をハイライトでご紹介しています。また、「セントラルパーク構想」を中心に、未来の姿についても知っていただくことができます。

（開館時間：9時～17時）

